

アイテム

2007
秋
Vol.01

財団法人 伊丹市文化振興財団(季刊 秋号)
TAKE FREE

「まちなか美術手帖
宮ノ前の空を見上げて



まちなかで
見つけた
動物たち



「伊丹遺産」
世界に2セットだけの
古代楽器コレクシヨンの

「雲は身を助く」
昆陽池で太極拳

「オトラクな関係」
ギターと
フライパンの
共同作業

「街に音楽を」とはじまった伊丹オトラクで芽生えた、マスターとミュージシャンとの例えばこんな関係
オトラクな関係 ① イタリアン料理「アントン」×ジャズユニット「Roppa Roppa」

ギターとフライパンの共同作業



Roppa Roppa ギタリスト畑ひろし
なにわのチャーリークリスチャン。独自のフ
ィーリングを持った演奏スタイルは、海外の
ミュージシャンからも評価を得ている。

イタリアンレストラン アントン
西台3-1-12山中ビル1F ☎072-770-2923
11:30~22:00(L.O21:00) 水曜定休
<http://www.r-anton.com>

西台で24年続く伊丹イタリアンの老舗「アントン」で
は5年前からコース料理付きライブをはじめた。ジャズ
を中心とした内容で、いまや3か月に1度の定番イベ
ントになった。色々なバンドが出演するなか、毎年開店記
念日に必ずステージに立つのは、ジャズグループ『Roppa
Roppa』。実はメンバーのギタリスト畑ひろしさんは、
アントンがライブをするにあたり、知人に紹介してもら
ってからの付き合いで、現在のジャズライブの流れを作
った一人なのである。

普段からお店でのライブが多いという畑さんにとって、
アントンでの演奏は「アットホームで、お客さんの顔が

見える近さがいい」とのこと。すぐ目の前にいるお客さ
んとかけあい、誕生日を迎えた客にはバースデーソング
も演奏する。客の反応が肌に伝わるオモシロさがあると
いう。店内のライブ用の照明もお客さんが自費でつけた
りと、文字通り、客と一緒にステージを作ってきたのだ。
「僕は音楽、シェフは料理でお客さんを楽しませる。い
わば共同作業なんだよね」と畑さんが言えば「アントン
の常連さんをRoppa Roppaのファンにするのはおもし
るいですよ」と中村シェフが応える。一朝一夕では身に
つかない信頼関係。お店ライブ文化の真骨頂、ここに見
たり。



取材と文
中脇健児●事業企画課事業担当 ヒゲ、メガネ、坊主と三拍子そろった財団屈指の個性派。「伊丹オトラク」「鳴く虫と郷町」な
ど多彩な企画でホールから飛び出す。本誌編集長も務める。

NO MUSIC,
NO ITAMI.

お店で、広場で、駅ビルで…伊丹のまちなかで音楽を楽しむ。

伊丹オトラクのライブスケジュールはチラシまたはwebで <http://hccweb1.bai.ne.jp/itamihall/>



うめちゃん

ポニーのお花屋さん

伊丹のまちなかにはポニーを連れてお花屋さん
がときおり現れる。花のそばにたたずむポニー“うめ”
ちゃんは道行く人の顔をほころばせる。「どこか
ら借りてるん？」とはよく言われるらしいが、実
はこれお花屋さんの飼馬。しっぽの三つ編みに
愛情を感じる。

まちなかの動物たちにも
いろんな事情があったりして…

ギャングなヌートリアさん



伊丹のアイドル白鳥さん



昆陽池仁義なき戦い

昆陽池のアイドル白鳥と大型ネズミの
ヌートリア。扱いは対極ながらも既にシン
ボルの存在。カメラの撮影率はすでに
逆転とか。しかし土手や木の根を傷つけ、生態系
も脅かすギャングなヌートリアにこれ以上甘い顔
は出来ない。白鳥ならぬ市の職員との仁義なき戦
いは続く。

伊丹タヌキBIG3のみなさん



看板タヌキせいぞろい

「他を抜く」にあやかって置かれる商売繁盛のタヌキ。信楽焼の王道から石材、金
物など個性派タヌキたちが揃う。そば屋、和菓子屋、居酒屋と一日のご飯もちょう
どよくこなせるので、一日タヌキツアーと洒落込むのをおすすめしたい。

左から伊丹アイフォニックホール隣の和菓子屋「満井幸栄堂」、伊丹酒蔵通りのそば処「一福」、東商店街の居酒屋「安兵衛」

伊丹市立美術館
柿衛文庫

思わず家で飼いたくなるキュートな動物が集結

現代彫刻の世界で最も注
目されている作家の一人、
三沢厚彦。美術館では、代
表作の木彫作品『Animalsシ
リーズ』に加え、絵本と画集
で好評を博した『ドローイング、
アトリエの再現』など彫刻家
三沢の豊かな作品世界を紹
介する。柿衛文庫では、「春
のうぐいす」といった鳥と
四季の風情を詠んだ句を紹
介する小企画展を同時開催。

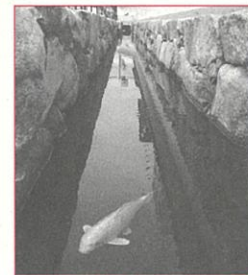
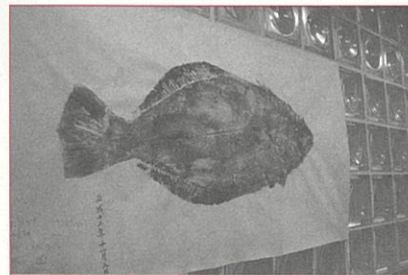
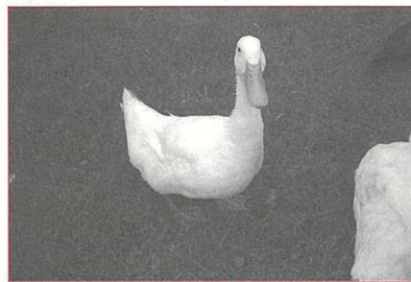
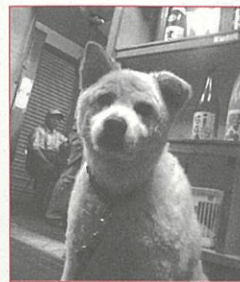


『三沢厚彦アニマルズ+』『鳥の歳時記』
11/3(土・祝)~12/16(日)。10:00~18:00(入館は
17:30まで)。入場料700円、大高350円、中小100円。美
術館☎072-772-7447、柿衛文庫☎072-782-0244。



伊丹市立美術館開館20周年を記念し
開催される、この秋注目の企画展『三
沢厚彦アニマルズ+』。動物の彫刻
が並ぶ本展にあわせ、伊丹の動物た
ちを集めてみました。

まちなかで
見つけた動物たち



1	2
3	4
5	6
7	8
	9

1 軒先にぶらさがるペンギン。風に揺られて見つめる先は南極か。2 東商店街で毎夜営業するたこ
焼き屋。帽子がモダンな伊丹らしい。3 80年代のブームが懐かしいウーパールーパー。総合教育セ
ンターの隠れたアイドル。4 「商売人のまぢやなあ」と思わせる招き猫。5 三軒寺前広場近く、白
井酒店の看板犬…ではなく常連さんの連れ犬。立ち飲みも出来る同店ならではの。6 某保険CMソ
ングを思わず口ずさむ。昆陽池の愛くるしいアヒル。7 東商店街「立呑み屋かっちゃん」の見事な魚
拓。釣り好きの常連さんからの自慢の一品。8 ニトリ前の堀で優雅に泳ぐ鯉。9 東商店街の居酒屋
「安兵衛」の看板タヌキ。リアルを通り越してちょっと怖い。

財団四季の芸は身を助く



伊丹市文化振興財団・加藤四季。ミュージカル俳優を夢見る歌って踊れる「財団四季」がまちへ飛び出し、あらゆる教室やスクールに挑戦するトツゲキ系連載。今回のテーマは

vol. ①

昆陽池朝の会
中国の先生が来日中教えてくれたのをキッカゲに発足。以後20年間毎朝教室やスクールに挑戦するトツゲキ系連載。実施。文字通り昆陽池の朝の風物詩。

太極拳でマイナスイオンを身体に取り込みたい



鳥

と市民の憩いの場として愛される昆陽池公園。ここで、本場・中国さながらに20年間毎朝欠かさず太極拳を続ける「昆陽池朝の会」を訪ねました。

大きな木の下にできたメンバーの輪に加わり、まずは準備体操。中国の舞台芸術学校の体操“健美操”から“六字訣”なる呼吸法と続きます。ふかふかの土を踏みしめ、木漏れ日に手を伸ばすと、身体がスーッと透き通るような気がしてきます。

深い呼吸とともに身体がほぐれたところで太極拳“簡化24式”と呼ばれる型に挑戦！股関節を緩めて立つのが大切とか。でもこれが意外と難しい。体重が後ろに流れそうになるのを必

死でこらえるから、お尻が突き出てしまったり。15分ほどで内ももの筋肉が張ってきました。一方、皆さんは片足を上げてピタッと静止できる強者ばかりで、外見も驚くほど若く健康的。ナルホド皆さん、今注目のインナーマッスルも鍛えられているのね。「ポールを抱えるみたいに両手で気を感じるんやで」「あんた続けたら絶対ええわ〜」とメンバーに励まされながら、1テンポ遅れの私も無事終了。

自然からの心地良いエネルギーを一身にもらえる、昆陽池早朝太極拳。心身ともにすっかりキレイになって“清く正しく美しく”仕事に励める—そんな気がする朝でした。



(写真上)巨木の下に集う「昆陽池朝の会」。気軽に参加できる雰囲気の魅力。(写真下)総勢40名の太極拳は迫力満点。見ただけでも楽しめる。

朝6:30~7:30毎朝実施。興味のある方は直接「昆陽池朝の会」まで。(申込不要・見学、お試し可)会費毎月300円



まちなか美術手帖

学芸員が美術館から飛び出し、気になる伊丹のまちなかをピックアップ。かの有名な作品も連想させる、見ようによってはアートな伊丹をご紹介します。

商店街

宮ノ前の空を見上げて

猪名野神社から縦に通る歴史ある宮ノ前商店街。鯉節、楽器屋、写真館、和菓子屋など、代々続く老舗が連なる商店街には、すがすがしい空の下、のびやかな風情が漂う。しかし、空が眺められるのは15年ほど前からのこと。

かつてそこにアーケードがあったことは、多くの伊丹市民の記憶に残っている。しかし、撤去される1993年、芸術家による「宮ノ前アーケード・プロジェクト」が水面下で計画されていたことを知る人は少ないだろう。

宮ノ前アーケード・プロジェクト

実現はされなかったが、1994年、伊丹市立美術館「工事現場からの提案：アーカイブ1984-1994」展で模型とデッサンが展示された。現在、資料は美術館が所蔵する。



を輝かせるためにセレモニーを計画した。古いアーケードに寄りそうように、もう一つの新しいアーケードを一時的に設置するというもの。懐古でも批判でもない。通り行く人々がアーケードの存在を考えるきっかけになればという想いを込めた。しかし残念ながら設置には至らず、プロジェクトは幻に終わった。

川俣正の創作意欲を刺激した宮ノ前商店街を歩き、空を見上げ、かつてのアーケードを思い出そう。



取材と文

岡本梓●伊丹市立美術館所属 「諷刺とユーモア」をコンセプトとする美術館にふさわしく、伊丹をナナメカから見「理論よりも感性」な現場肌の学芸員。近現代美術を専門とする。



取材と文

加藤四季●いたみホール所属 声楽を学び、社交ダンスでは全国大会出場経験も持つ「歌って踊れる」ホールスタッフ1年目。「体力なら誰にも負けません」。

とんこうばっこうくつ

敦煌莫高窟壁画からの復元楽器

伊丹アイフォニックホール所蔵

第1回



世界に2セットだけの 古代楽器コレクション

かべんこげんげん デコラティブな花辺五弦阮。琵琶と阮が合成されてできた楽器。



伊丹アイフォニックホール ●伊丹市の花"ツツジ"をモチーフにした天井照明が特徴の音楽ホール。世界の伝統音楽を紹介する「地球音楽シリーズ」を年8回開催。

トンコウバツコウクツツ：呪文めいた響きが印象的なのは、中国北西部のオアシス都市・敦煌が誇る石窟寺院群の名。世界遺産にも登録される延べ5万平米に及ぶ巨大壁画には、3500人の楽人、44種6000点の楽器が描かれているとか。まさに「古代音楽史の大画廊」。

ひと目見たい！ アナタに吉報

10～11月の間、大阪音楽大学音楽博物館が同楽器展を開催。コレクションのほぼすべてが出揃う又とない機会。見逃す手はありません。

取材と文

内山真理子 ●伊丹アイフォニックホール所属 世界の音楽を紹介する「地球音楽シリーズ」などを担当。ローカル～グローバルな「伝統芸能」と奮闘する傍ら、友の会メンバーとゆく「祭りツアー」でツアーコン修行中。

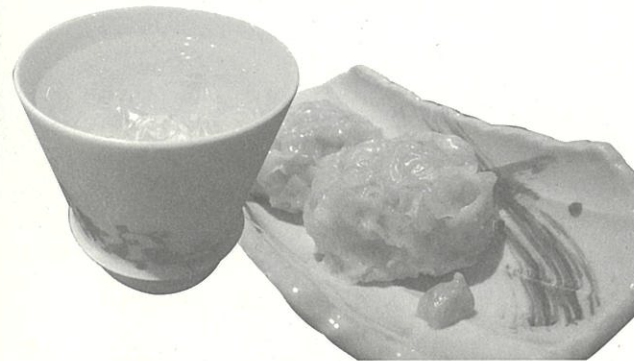


レニングラード国立バレエ

草刈民代を迎えての、名門バレエ団による、有名作品のガラ公演。草刈は、「白鳥の湖」「エスメラルダ」に登場し、魅力と存在感を發揮。「ワルプルギスの夜」や「海賊」「グラン・パ・クラシック」などではバレエ団のプリマやソリストたちが技と美を競い合った。

伊丹の「白鳥の湖」とも言える昆陽池から国道177号線を東へ700m。父がウエーター、息子がシエフを務めるその店の名は「太陽と神殿」という意味のギリシア語「ELIION（イリオン）」。

肉のコール・ド・バレエ（群舞）「豚ロースの豆乳しゃぶしゃぶ」でクライマックスを迎えた。豆腐料理を満喫したお腹はすっかり膨れてしまったが、こころなしかいつもよりやわらかかった。



取材と文

宮村賢治 ●いたみホール所属 期待のルーキー。大学で法律と哲学を学ぶも、アートプロジェクトのオモシロさにひかれて大学院へ。伊丹でも何か面白い事が出来ないかと日々商店街やまちなかをぶらつく。

終演後の一軒

a door after the show

伊丹には感動の余韻を楽しませてくれるお酒と料理がちゃんとありました。

華麗なる豆腐のアンサンブル

去る7月にいたみホールで開催された「レニングラード国立バレエ」華麗なるクラシックハイライト」にて、華麗に舞うプリマやソリス

洋風の店構えは、スキーが趣味のお父さんが選んだ、アルプスの山荘風なのだという。「豆腐」の和のイメージを想像して行く通り過ぎてしまいたいそうなくらい「洋風」な付まいの中、和洋創作の豆腐コース料理は展開される。



CUISINE ELIION

(キュージーヌ イリオン)

瑞穂町1-78 TEL:072-778-1806

写真は豆腐のコース料理(2,500円)より「豆腐シュウマイ」。焼酎はコクとキレが個性的な日高山醸造「アサヒ」。



町家で生まれる アイデアと出会い

今回で紹介するのは、ジュエリー作家の佐藤ミチヒロさん。主に紙を素材とする繊細な作品を制作されています。誰にでも簡単に手に入る冊子や印刷物の断面を利用し、立体的に仕上げられた作品は何とも不思議です。

ドイツを中心に海外生活が17年という佐藤さんは、2001年『伊丹国際クラフト展』大賞受賞を機に、04年帰国。伊丹に自宅兼工房を構えました。

「酒蔵などの古い町並みが残る伊丹が好き」という佐藤さんの工房は、伊丹郷町館前の古い町家です。扉を開けると吹き抜けの天井に、むき出しの梁と土壁。外観からは想像もつかないほど、お洒落で落ち着いた雰囲気。クリーム色の間仕切りには作品が並んでいます。その裏側が仕事場。「特別な道具はあまり使わないです」という

クラフト作家の 仕事場をたずねて

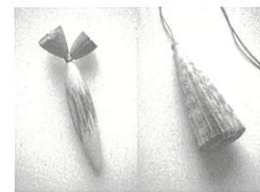
ジュエリー作家の佐藤ミチヒロさん



(上)間仕切りの穴には作品が並ぶ。
(下)工房は伊丹郷町館前。

『2007 伊丹国際クラフト展』 主題「ジュエリー」

受賞作品は10/26(金)~11/25(日)
伊丹市立工芸センター地下1階、企画
展示室にてご覧頂けます。(月曜休館、
10:00~18:00)



佐藤ミチヒロ
1961年群馬県生まれ。現在は伊丹の古い町家に住む。来年1月、ロンドンV&Aの『Collect』に出展。
<http://homepage2.nifty.com/fragile-design/>

様に、作業台はすっきり。

ドイツのデザイン会社に勤めていた時、「模型制作で出た」切りかす「からジュエリーのアイデアが浮かんだこともある」という佐藤さん。日々の暮らしの中でも常に作品の事を考え、新たなデザインを生み出しています。

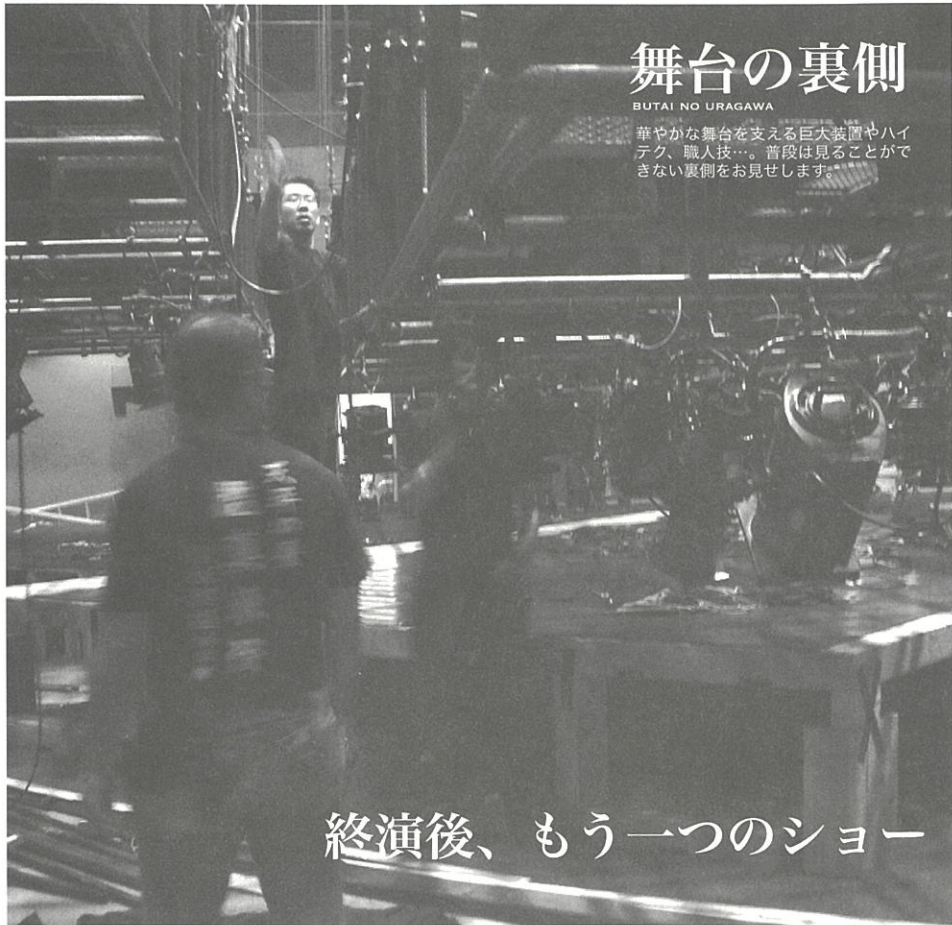
現在も自宅兼工房を改装中で、将来的にはドイツ生活時代に強く印象に残った「TEA」という集まりの様に、「自身の工房を開放し、多くの人が自由に入力する場になりたい」とのこと。

扉が開いていたら1階で作業をしている証拠。皆さま、お近くにお立ち寄りの際にちよつと覗いてみてはいかがでしょうか？

舞台の裏側

BUTAI NO URAGAWA

華やかな舞台を支える巨大装置やハイテク、職人技…。普段は見ることができない裏側をお見せします。



終演後、もう一つのショー

終演と同時に「裏方さん」が慌しくステージを行き交う。観客のいない、もうひとつのショーの開演だ。

関西小劇場演劇の拠点として知られるアイホール。舞台上に取り付けられた25の照明用フレームと35の昇降床はすべて可動式。照明、舞台、客席すべてを自由に演出できるこれらの設備は、多くの演劇人の創作意欲をかき立ててきた。しかし、凝った舞台づくりに必要な技術と時間を要する。

公演で使用した器具等を片付け、元の状態に戻す「バラシ」と呼ばれる仕事がある。公演によっては、わずか90分という閉館までの短い時間でバラシ終える。彼らは様々なノウハウを駆使し、手際の良い段取りで舞台をバラシていく。危険と隣りあわせの中で繰り広げられる、流麗な作業は何とも美しいのだ。

数々の舞台の裏側には、必ずバラシがある。閉館する際のガランとしたホールを見ると、たった今見た公演が夢だった様な錯覚に陥ってしまう。

取材と文

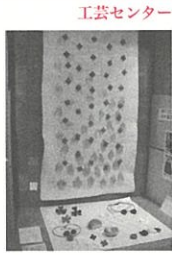
権田康行●事業企画課施設担当 「困ったら僕に聞け」舞台、音響、電気、パソコン…7つの施設を股にかけ、技術を一手に引き受ける頼りになるメカニックマン。

取材と文

澤野宏美●伊丹市立工芸センター所属 伊丹郷町クラフトショップを拠点に全国各地の作家とつながる。現在はショップと手織や陶芸などの講座を担当。自身もものづくりに魅せられ、身につけるものをチョコチョコ自作する。

あなたの宝物を探しませんか？

伊丹工芸クラブ会員の作品を展示・即売。プロや愛好家が制作した陶器・木工・ジュエリー・染・織などのクラフト品が大集合。素敵な作品にたくさん出会えます。期間中ワークショップ・フリーマーケットもあり。

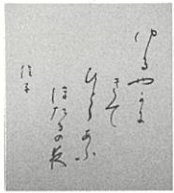


工芸センター

『伊丹工芸クラブ会員展』12/1(土)～9日(日)。10:00～18:00(入館は17:30、最終日は16:30まで)。無料。☎072-772-5557

17文字で語る女の生き様、200点

平成16年に亡くなった女性俳人の第一人者、桂信子。彼女の近現代俳句の所蔵品を中心に、女性俳人の足跡を句集や短冊など直筆資料200点以上で展示。あわせて俳句関連の書物を閲覧できる資料室も新開設。こちらにもぜひ足を運びたい。



柿衛文庫

『女性俳句の世界-桂信子とその時代』10/21(日)まで。10:00～18:00(入館は17:30まで)。入場料700円。☎072-782-0244

※イベントにより、未就学児童の入場の制限等がある場合がございます。詳細は各ホールへお問合せ下さい。
 ※いたみホール、アイホール、ラスタホールは火曜日休館。伊丹アイフォニックホールは水曜日休館。美術館、工芸センター、伊丹郷町館、柿衛文庫は月曜日休館。(祝日にあたる時は翌日)

アイテム

2007秋 Vol.01

2007年10月1日発行(季刊秋号)
 発行：(財)伊丹市文化振興財団
 編集：アイテム編集委員会
 表紙イラスト：ニシワキタダシ

〒664-0895 伊丹市宮ノ前1-1-3
 伊丹市立文化会館「いたみホール」内
 Tel. 072-778-8788 Fax. 072-778-8585

http://hccweb1.bai.ne.jp/itamihall/zaidan
 Email itamihall@hcc1.bai.ne.jp

<配布場所>市内・近隣の文化施設でお取りいただける他、こんなところで配布協力いただいています。アリオ1&2、伊丹酒蔵通り、東商店街、タミータウン、宮ノ前商店街、三軒寺前広場周辺のお店、伊丹シティホテル...ほか市内各所

目指したのはこんなアイテム(リニューアルについて)

市内の文化施設7施設を運営管理する(財)伊丹市文化振興財団、「伊丹のイベントまるわかり!」として7施設の公演情報などをまとめて発行していたitem(アイテム)を「まちとアートをつなぐ伊丹のアイテム」として、リニューアル。展覧会やコンサートを観に、せっかく訪れた伊丹のまちなかも遊び心で楽しんでいただけたら、と思います。

話題の社会派劇団、次はWTC?!

地雷問題、天皇制、列車事故...。読売演劇大賞受賞など、日本の演劇界で一級の社会派である燐光群の本公演は「ワールド・トレード・センター」。



アイホール

燐光群『ワールド・トレード・センター』11/9(金)～12(月)。3,300円(当日300円増)。ベア、学生割あり。☎072-782-2000

94分でわかる地球規模の環境問題

話題の注目作を上映するラスタ映画倶楽部。今回はアメリカ元副大統領ゴアが温暖化による地球の危機を世界中に訴える姿を描いたドキュメンタリー作品を。あなたはこの地球の姿をどう受け止めますか?

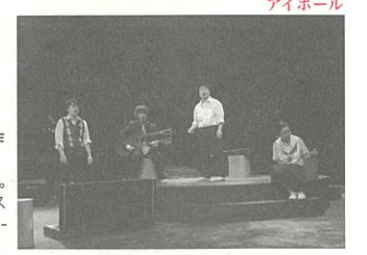


ラスタホール

『不都合な真実』10/13(土)⑩10:00⑪14:00⑫18:00 一般800円、高校生以下・60歳以上600円(当日各200円増)。☎072-781-8877

「ディス・イズ・演劇!」な高橋恵の最新作

昨年度、好評を博したアイホールと岩崎正裕(劇団太陽族)との共同製作の第2弾。第13回OMS戯曲賞の選評において「これぞ、演劇!」と審査員の松田正隆に喝破させた気鋭の劇作家・高橋恵の新作書き下ろし。20名もの出演者全員オーディションで選ば、看護学校の寮を舞台にした群像劇です。新しい才能たちによる、瑞々しい感性の舞台に注目!



アイホール

AI・HALL+岩崎正裕 共同製作
 『フロレンスの庭』
 11/29(木)～12/2(日)時間未定。
 一般2,500円、学生&ユース1,800円。アイホール☎072-782-2000

ラスタでマナブ。いろんなカタチの生涯学習

ラスタホール名物、秋の講座がいよいよ開講される! 「ことばあそびへの招待」「ハープでナチュララライフ」など言葉、料理、歴史、アートなど美た多彩な講座11種。カリキュラムも数回〜10回以上と幅広い。「趣味をふやしたい」「何かはじめてみようかな?」とお悩みのあなた、ラスタで「学び」の出会いを見つけよう。



ラスタホール

『2007秋の講座』
 10月から。講座、日程、料金など詳細はお問合せ下さい。ラスタホール☎072-781-8877

家族みんなで、スイング! スイング!

「ムーンライトセレナーデ」「インザムード...」。グレン・ミラーの残した名曲の数々は、誰もが一度は耳にしたことがあるはず。甘美でロマンティックなメロディーと、心踊らせるスイングナンバーを家族みんなで楽しんではいかが?



いたみホール

『グレン・ミラーオーケストラ』12/8(土)14:00。5,500円。☎072-778-8788

福音のスピリットを感じて。

アメリカコネチカット州から5年ぶりに「ヘヴンリイクワイア」のメンバーがやって来ます! 2度目にわたり、同州の「クワイア・オブ・ザ・イヤ」を受賞した実力派グループの熱唱が人々に愛と勇気を運んでくれます。



伊丹アイフォニックホール

『アイフォニック地球音楽シリーズ130「歓喜の降臨-GOSPEL」』12/9(日)19:00。一般3,500円、学生2,500円(当日各500円UP)☎072-780-2110

話題のイケメン指揮者、バロックを振る

デビュー以来、クラシック界に常に華やかな話題と新風を送り続ける金聖響。9月公演も大好評で終えた金聖響初のバロック・プロジェクトも、いよいよ11月公演を残すのみ! 大阪センチュリー響との華麗なる名演を是非!



いたみホール

『大阪センチュリー交響楽団特別演奏会 金聖響Vivaldi&J.S.Bach』11/18(日)15:00。S5,000円、A4,000円。学生・60才以上各500円引。☎072-778-8788

標高3500m、太陽に向かってうたう。

ケーナにサンポーニヤ:ときけば思い浮かぶあのメロディー♪ 標高3500m超のアンデス高地に暮らす南米ポリヴィアから、豊作祈願の農村の音楽と、スペイン文化流入以後の音楽をグループ、カリヤワヤ6名の来日公演。



伊丹アイフォニックホール

『アイフォニック地球音楽シリーズ129「アンデス原風景」』11/11(日)15:00。一般3,500円、学生2,500円(当日各500円増)。☎072-780-2110